From Doctor

－市民病院医師からのお話を紹介します－

「大腸がん検診」受けていますか？

市民病院☎57－0057



内視鏡センター
主任部長・髙田博樹

近年患者が増加している大腸がんは、命に関わる病気です。しかし、早い段階で見つけることができれば、根治する事が可能です。手遅れにならないよう検診を受け、異常があれば、精密検査を受けましょう。

大腸がん検診って？

便の中に血液があるか調べる「便潜血検査」という方法で行います。通常、便の中に血液は混ざっていないため、血液があると陽性と判定されます。

陽性だと精密検査が必要なのですが、「症状がない」「痔があるから」「大腸カメラは大変と聞いている」などの理由で、実際に病院で精密検査を受ける方は約6割と言われています。これでは、せっかくの早期発見のチャンスを逃してしまいます。

どんな病気が見つかるの？

精密検査を受けた方全員にがんが見つかるわけではありません。大腸がん以外の病気として大腸ポリープ、大腸憩室、痔、腸炎などが挙げられます。

大腸がんは精密検査を受けた方の約3％に見つかると言われており、あまり高い確率ではないと感じるかもしれません。しかし、約30人に1人に見つかると考えれば、「ひょっとして自分も…」と心配になるのではないでしょうか。

精密検査では何をするの？

主に大腸カメラを使って検査を行います。前日から食事制限と下剤の服用をして準備し、検査では、大腸カメラをお尻の穴から大腸の一番奥まで入れて調べます。



当日たくさんの下剤を飲むのが大変という方や高齢者のために、市民病院には専用の前処置室があります。また、カメラを挿入するときには、お腹が張りにくくなる二酸化炭素送気を行い、NBI（狭帯光域観察）（※1）や拡大機能（※2）といった、病気を正確に診断する機能を備えた、最新の大腸カメラを使用します。

※1 特殊な波長の光を当てることで、正常粘膜と病変を識別しやすくする機能
※2 顕微鏡に近いレベルまで拡大可能

最後に

早期に病気を見つけることができれば、薬や大腸カメラを使った治療で病気を治すことができます。積極的に検診を受け、もし異常があれば、怖がらず病院を受診してください。

12月19日(土)に大腸がん・すい臓がんをテーマに市民公開講座を開催します。詳しくは、市民病院ホームページを見てください。